

ウクライナ・キエフ（CNN） 遠方でロケット弾を発射する音がウクライナ首都キエフの朝の静寂を破る。

「あれは我々がホストメル付近のロシア軍の陣地を攻撃している音だ」。ロケット弾が一斉に発射される中、ウクライナ人兵士の1人がそう語った。

今回の場合、ウクライナ軍がロシアの侵攻軍を狙って使用しているロケット弾は、実はロシア製だ。

(ヒ  
ズ  
リ  
ー  
チ) ①

ウクライナ領土防衛隊の幹部を務める海軍退役軍人、ユーリ・ゴロドフ氏は「昨晚ウクライナ軍のもとにウラガンミサイル24発を送った。我が国の都市上空に飛ばす目的で運び込まれたものだ」と明かす。



「我々はミサイルを無傷の状態のまま奪取し、夜間にウクライナ軍に渡した。いまはウクライナ軍がミサイルを打ち返している」（ゴロドフ氏）

ゴロドフ氏はロシア軍が放棄したり、同軍から奪ったりした軍装備品を再利用するうえで重要な役割を担う。

「ロシア軍から奪ったものは全てウクライナ軍に引き渡している」（ゴロドフ氏）

### 損傷した兵器が生まれ変わる

CNN取材班が廃品工場を訪れたところ、ウクライナ軍は目標発見に使われる砲兵支援車の部品を取り外していた。

ロシア軍のマークの上にはすでにウクライナ国旗が描かれており、ゴロドフ氏らは車両を前線に送り返す前に通信機器の取り外しを行っているところだった。

「今後は負傷者の搬送に使う予定だ」とゴロドフ氏は語り、ウクライナの戦争努力にとって「重要」な貢献をしてくれるだろうと言い添えた。

---

「これは非常に優れたクロスカントリー車であり、湿地にも雪にも対応できる」（ゴロドフ氏）

ロシア軍が使用する装備品はウクライナ兵が使うものと似ているか同一であることが多く、運用は手慣れたものだ。

こうした装備品について、ゴロドフ氏は「ソ連時代にさかのぼる」もので「非常に信頼性が高い」と語る。

「いずれも使える状態にある。古い兵器のように見えるが、実は正しい使用法をすれば長期間役に立つ」（ゴロドフ氏）

工場内にある装備品の一部については、ゴロドフ氏の大隊が自ら奪取した。

「我々は特殊大隊であり、敵の前線の背後で活動する縦深偵察を担っている」と同氏は説明。「我々の任務は弾薬や燃料、食料などロシア軍の補給物資を破壊することにある」と語る。

### **攻撃を受けながら武器を奪取**

角を曲がると、かつてロシア軍に属していた燃料トラックが再配備の準備を終え待機していた。さらに迷彩色の覆いの下では、奪取した装甲兵員輸送車も次の任務を待っていた。

後者はさび付いた古いソ連時代の重機械だ。ウクライナ領土防衛隊の隊員が動かすと舗装を破壊してしまうが、隊員らは有効活用に意欲を示す。

ゴロドフ氏によると、この車両は同氏の部隊がロシアの隊列を攻撃した際に奪取した。

---

---

「先頭車両を攻撃したところ、爆発して隊列が停止した。（ロシア兵が）逃走したので装備品を奪った」（ゴロドフ氏）

ゴロドフ氏やその部下によると、こうした出来事は今回の戦場で頻発している。

「ロシア兵はおびえ、士気を失っている。あらゆる茂みから銃撃されるので、兵士たちはお互いから離れることを恐れている」（ゴロドフ氏）

中には非常に若い経験不足の兵士もいるようだと同氏は指摘する。「大半の兵士はここに来た理由を知らないし、理解もしていない」

経験不足なのはウクライナ領土防衛隊も同様だ。大半の隊員はロシア侵攻前はまったく軍事訓練を受けたことがなかったが、戦闘準備はできていると口をそろえる。

施設の別の場所では、AK47ライフルで武装した兵士がロシア兵との遭遇に備えて訓練を行っていた。グループで整然と動き、指揮官が自分たちの方向に空砲を撃ってもひるむ様子はない。

ゴロドフ氏はそんな隊員らを誇らしげに見守っていた。海軍を退役する前、同氏はロシア北西部ムルマンスクを拠点とするソ連北方艦隊で過ごした経験があり、ロシア軍の実力は熟知している。

同氏は取材班に対し、一見勝ち目がない状況でのウクライナの善戦は意外ではないと語った。

「ロシア軍の強さは神話に過ぎない」とゴロドフ氏。ウクライナの勝利を確信しているといい、「どうすればそれ以外の考えになるのか」と自信を見せた。